

## 平成23年度予算

本年度予算の事業選択に当たっては、市内経済の活性化を図り、まちに元気を取り戻すため、できる限り市内業者への発注可能な事業を優先して選択しました。

また、工事などの発注については、平成22年度補正予算を繰り越して執行する事業と連動しながら、年間を通じて計画的な予算執行を行ってまいります。

## 雇用・労働・産業

雇用については、特に新規卒業予定者や未就職卒業者を取り巻く就職環境は大変厳しい状況となっていることから、引き続き、国の雇用創出制度などを活用しながら、各種事業の実施に取り組んでまいります。

企業立地については、企業などに対する優遇措置について、対象となる業種の拡大や要件の緩和、措置内容の充実を図るとともに、企業間のネットワークを活用し、情報を収集しながら推進してまいります。

起業化支援については、市内の地域資源や技術を活用した新たな地域商品の創出、新たな技術やサービスの提供を行う事業者について、総合的に支援することにより、新事業などの創出について取り組んでまいります。

商業については、空き店舗の活用、市民ニーズに対応するために商店会などが自主的に取り組む『買い物支

援トライアル事業』や、市内商店街のネットワーク化など、活性化に向けた新たな取り組みを支援してまいります。

農畜産業については、引き続き、農業経営の体質の強化を図るとともに、農畜産物の高付加価値化や市内農畜産業の将来像について、農業従事者の方々と直接対話をしてまいります。

水産業については、漁業者が安全・安心に操業ができる環境づくりや衛生管理の徹底など、漁港整備の推進を図ってまいります。

また、地元農水産物の地産地消を促進するため、ポスター、パンフレット、各種広報媒体などを活用した消費啓発活動を定住自立圏の取り組みも含め、推進してまいります。

## 観光

観光産業は、当市にとって非常に重要な産業であり、登別温泉は市民にとって大きな財産であると考えます。



▲昨年の登別地獄まつり

市民の皆さんに登別の魅力を発信していただくためには、温泉の良さや見どころなどを知っていただく必要があることから、2年後の『登別地獄まつり半世紀』に向けて市民が地獄まつりに関わりながら、温泉の魅力を知り、これを契機として、全市観光の機運を高めていきたいと思えます。

さらに当市は、近隣の3市4町や観光協会などと北海道登別洞爺広域観光圏協議会を設立し、体験を通じた滞在型の観光を目指しております。豊富な観光資源を有するこの地域に、より多くの観光客に来ていただくため、国内外での観光プロモーションなどの誘客事業に取り組むほか、接客や移動の利便性などについての満足度などの調査を行い、圏域全体の観光戦略につなげてまいります。

## 担い合う

### まちづくり

次に『担い合うまちづくり』についてであります。

私は、これまで、まちづくりの推進には『市民力』の結集が何よりも大切であると申し上げてまいりました。今後、まちづくりには市民の皆さんとの『協働』が不可欠であり、何よりも市民の皆さん一人一人が登別市を活力のある豊かなまちにしたという共通の目標に向かい、情熱を持ち、力を結集して、ともに取り

組む『担い合うまちづくり』に参画していただくことが肝要であります。市民の皆さん一人一人が持っている知識や経験、能力を持ち寄り、結ばれることによってできるネットワークが大きな『市民力』となります。この『市民力』をもって、市民の皆さんが自発的にまちづくりを進めることで、『市民が主役のまちづくり』が展開されます。

## 市民活動センター

昨年、開設しました市民活動センターでは、『のぼりん文化講座』や、各種イベントなどの開催によって多くの市民が集い、市民活動のきっかけづくりのため、情報収集・発信業務、相談業務、人材育成事業など、活動の支援に努めてまいりました。



▲のぼりん文化講座『親子お琴教室』の様子

今後につきましては、町内会をはじめとするさまざまな市民活動団体同士のネットワーク化、互いの情報の受発信などの支援をしてまいります。